



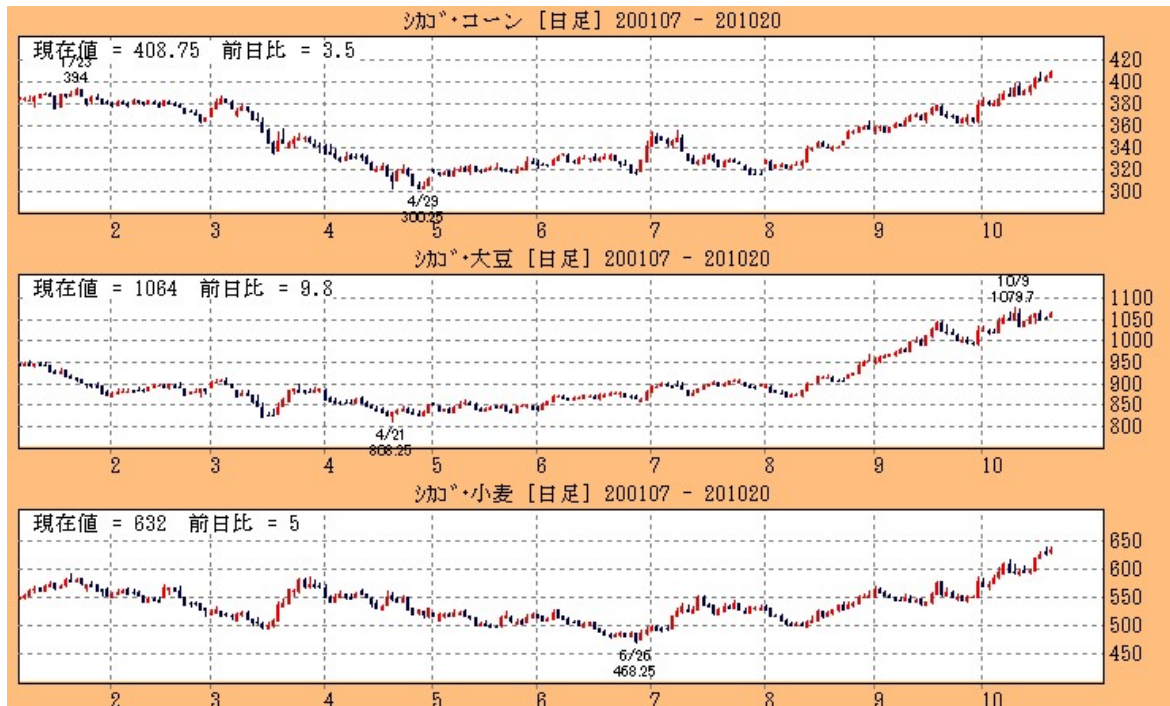
週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

トウモロコシ、大豆は続伸

2020/10/21



20日のシカゴトウモロコシ12月限は前日比+3.50セントの408.75セントと続伸。取引レンジは403.50セント～409.75セント。時間外取引で前日の高値を上抜いたことで利益確定売りが広がり、一時は403.50セントまで下落した。ただ、その後、シカゴの時間帯を迎えると活発な輸出需要から買いが優勢となり、409.75セントの高値まで上昇し、高値圏のまま取引を終えた。南米での土壌水分の乾燥懸念もコーンの供給不安に繋がっており支援材料となっている。ただ、取引終了後に米農務省（USDA）が発表した週間収穫進捗（しんちょく）率によると、米国産トウモロコシの収穫は60%完了と、平年を上回っており、引き続きハーベストプレッシャーが意識され上値を抑えている。

20日のシカゴ大豆11月限は前日比+9.75セントの1064.00セントと大幅続伸。取引レンジは1051.25セント～1065.75セント。米農務省（USDA）が仕向け地不明の13万2000トン大豆大口成約を発表したことや、ブラジル産地での土壌水分の乾燥が買いを支援した。力強い輸出需要を背景に続伸している。

20日のシカゴ小麦12月限は前日比+5.00セントの632.00セントと続伸。取引レンジは623.50セント～638.25セント。米産地やアルゼンチンなど世界的に乾燥気候で収穫が減少するとの懸念が出ており、買いが優勢だった。中心限月としては2014年12月以来の高値に達した。ドル安による輸出期待が強まっていることも支援材料となっているもよう。



Crop Progress

トウモロコシ			18州
Matured	前年度	2020年度	過去5年平均
8月23日	2%	5%	3%
8月30日	5%	12%	7%
9月6日	10%	25%	19%
9月13日	16%	41%	32%
9月20日	26%	59%	49%
9月27日	39%	75%	65%
10月4日	54%	87%	78%
10月11日	69%	94%	87%
10月18日	82%	97%	94%
トウモロコシ			18州
Hrvested	前年度	2020年度	過去5年平均
9月13日	3%	5%	5%
9月20日	6%	8%	10%
9月27日	10%	15%	16%
10月4日	14%	25%	24%
10月11日	20%	41%	32%
10月18日	28%	60%	43%

トウモロコシ						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
5月24日	1%	4%	21%	61%	12%	73%
5月31日	1%	3%	21%	61%	15%	76%
6月7日	1%	3%	21%	60%	15%	75%
6月14日	1%	4%	24%	56%	15%	71%
6月21日	1%	4%	23%	57%	15%	72%
6月28日	1%	4%	22%	57%	16%	73%
7月5日	1%	4%	23%	54%	16%	70%
7月12日	2%	6%	23%	52%	17%	69%
7月19日	2%	6%	23%	52%	17%	69%
7月26日	2%	5%	21%	55%	17%	72%
8月2日	2%	5%	21%	55%	17%	72%
8月9日	2%	6%	21%	53%	18%	71%
8月16日	3%	7%	21%	52%	17%	69%
8月23日	4%	8%	24%	49%	15%	64%
8月30日	5%	9%	24%	48%	14%	62%
9月6日	5%	9%	25%	46%	18%	64%
9月13日	5%	10%	25%	46%	14%	60%
9月20日	5%	9%	25%	47%	14%	61%
9月27日	5%	9%	25%	47%	14%	61%
10月4日	4%	9%	25%	48%	14%	62%
10月11日	5%	9%	25%	46%	15%	61%
10月18日	5%	9%	25%	46%	15%	61%
前年度	4%	11%	30%	45%	11%	56%

大豆			18州
落葉	前年度	2020年度	過去5年平均
8月23日	2%	4%	4%
8月30日	2%	8%	8%
9月6日	7%	20%	16%
9月13日	13%	37%	31%
9月20日	29%	59%	50%
9月27日	49%	74%	69%
10月4日	67%	85%	82%
10月11日	81%	93%	90%
10月18日	91%	97%	95%

大豆			18州
収穫	前年度	2020年度	過去5年平均
9月27日	6%	20%	15%
10月4日	12%	38%	28%
10月11日	23%	61%	42%
10月18日	40%	75%	58%

冬小麦			18州
作付け	前年度	2020年度	過去5年平均
9月6日	1%	5%	3%
9月13日	6%	10%	8%
9月20日	18%	20%	19%
9月27日	34%	35%	33%
10月4日	48%	52%	47%
10月11日	61%	68%	61%
10月18日	74%	77%	72%

冬小麦			18州
Emerged	前年度	2020年度	過去5年平均
9月20日	2%	3%	2%
9月27日	8%	10%	8%
10月4日	22%	24%	21%
10月11日	37%	41%	35%
10月18日	50%	51%	48%

10月18日の米産トウモロコシのMaturedは97%（前年は82%、過去5年平均は94%）トウモロコシの作柄は優と良が61%。（前年は56%）トウモロコシの収穫は60%完了（前年は28%、過去5年平均は43%）

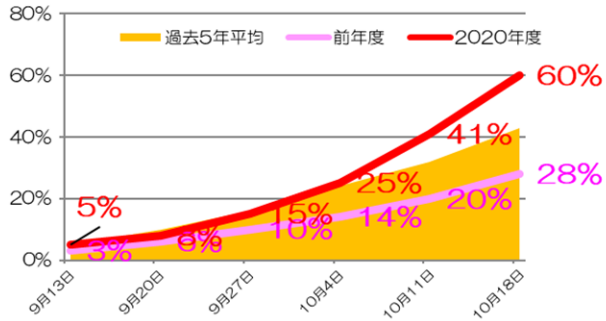
大豆は、落葉が97%完了、（前年は91%、過去5年平均は95%）

冬小麦の作付けが77%（前年は74%、過去5年平均は72%）冬小麦の開花は51%（前年は50%、過去5年平均は48%）



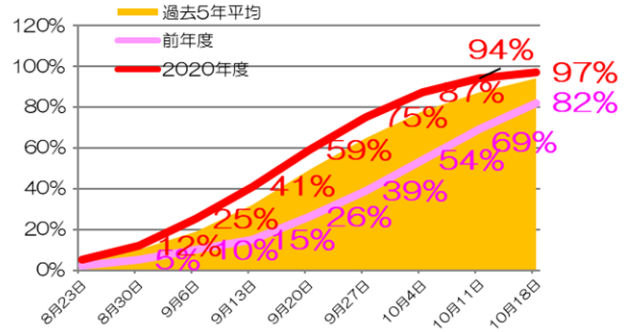
10月18日までのトウモロコシ

20/21年度の Harvested 進捗状況



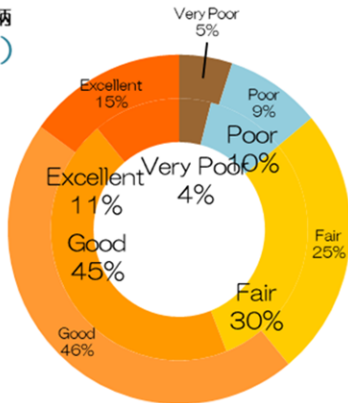
10月18日までのトウモロコシ

20/21年度の Matured 進捗状況



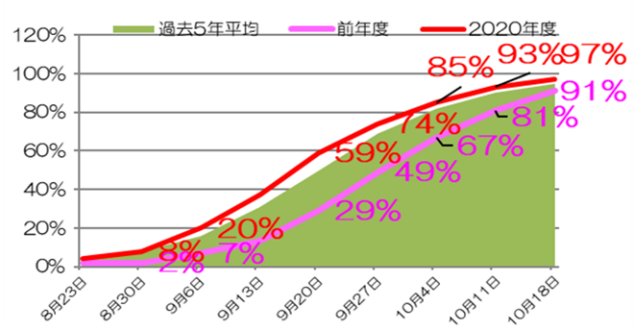
トウモロコシの作柄 (10月18日)

外側は2020年
内側は2019年



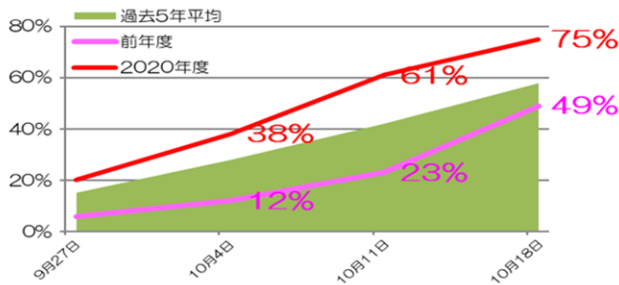
10月18日までの

20/21年度産大豆の落葉 進捗状況



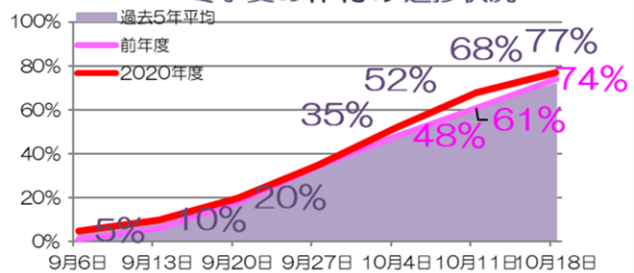
10月18日までの

20/21年度産大豆の Harvested 進捗状況



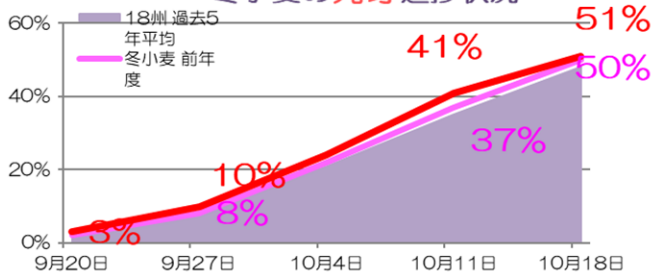
10月18日まで20/21年度米国産

冬小麦の作付け進捗状況



10月18日まで20/21年度米国産

冬小麦の発芽進捗状況





ブラジルのトウモロコシ需給

	2020年9月28日									
千トン・千ヘクタール	16/17年度	前年比	17/18年度	前年比	18/19年度	前年比	19/20年度	前年比	20/21年度	前年比
収穫面積	17,600	+1,600	16,600	▲1,000	17,500	+900	18,500	+1,000	19,200	+0
期初在庫	6,769	▲1,073	14,019	+7,250	9,315	▲4,704	5,292	▲4,023	6,392	+1,100
生産	98,500	+31,500	82,000	▲16,500	101,000	+19,000	103,000	+2,000	107,000	+4,000
輸入（穀物年度）	854	▲2,569	915	+61	1,659	+744	1,100	▲559	1,500	+400
輸入（暦年）	2,439	+873	943	▲1,496	1,189	+246	1,350	+161	1,500	+150
供給合計	106,123	+27,858	96,934	▲9,189	111,974	+15,040	109,392	▲2,582	114,892	+5,500
輸出（穀物年度）	31,604	+17,608	24,341	▲7,263	39,682	+15,341	34,000	▲5,682	37,000	+3,000
輸出（暦年）	19,794	▲15,588	25,115	+5,321	38,994	+13,879	31,000	▲7,994	34,000	+3,000
飼料用その他	51,000	+2,000	54,000	+3,000	57,000	+3,000	58,500	+1,500	60,000	+1,500
食料用需要	9,500	+1,000	9,500	+0	10,000	+500	10,500	+500	11,000	+500
国内需要合計	60,500	+3,000	63,500	+3,000	67,000	+3,500	69,000	+2,000	71,000	+2,000
期末在庫	14,019	+7,250	9,093	▲4,926	5,292	▲3,801	6,392	+1,100	6,892	+500
期末在庫率	15.2%	+5.8%	10.4%	▲4.9%	5.0%	▲5.4%	6.4%	+1.4%	6.6%	+2%
生産+輸入（①）	99,354	+28,931	82,915	▲16,439	111,974	+29,059	109,392	▲2,582	114,892	+5,500
国内消費+輸出（②）	92,104	+20,608	87,841	▲4,263	105,994	+18,153	100,000	▲5,994	105,000	+5,000
需給バランス（①-②）	+7,250	+8,323	▲4,926	▲12,176	+5,980	+10,906	+9,392	+3,412	+3,412	▲5,980
単収	5.5966		4.9398		5.7714		5.5676		5.5729	

ブラジルのトウモロコシの生産

ブラジル南部は2019年12月に大きな干ばつに

2019/20年度（2020年3月～2021年2月）のブラジルのトウモロコシの生産量は7月の予想から+300万トン増加して1億300万トンの見込み。マトグロッソ州等中西部の収穫面積が予想より拡大し、二期作目の生育が順調だったことによる。収穫面積は5万ヘクタール増えて前年比+100万ヘクタール増、+5.7%増の1,850万ヘクタールとなった。輸出や家禽や家畜向飼料向けの国内需要が堅調でエタノール需要も好調だったため、農家出荷価格は過去5年平均を上回り、60リラ（11米ドル）/60キロ入り袋の高値となった。ブラジルレアルがドルに対して弱くなったため2019年輸出量が記録的な量となり、また、価格上昇により在庫が減少した。

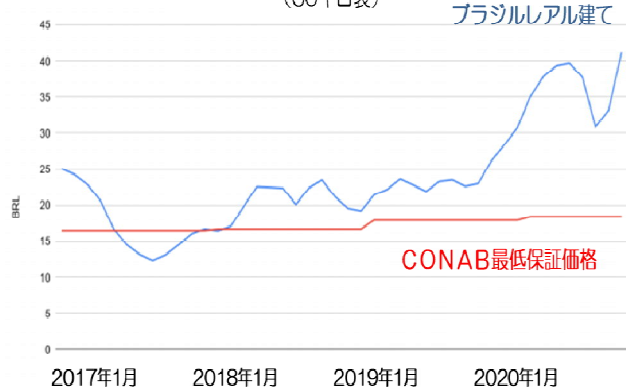
2020/21年度（2021年3月～2022年2月）の生産は+4%増の1億700万トンと予想されている。収穫面積は+70万ヘクタール増、+4%増の1,920万ヘクタールと予想されている。

ブラジルの1期作目のトウモロコシは、9月から12月の間に順調に作付けされ、1月～5月に収穫される。19/20年度産の主要生産地である南部ブラジルは一貫して乾燥した天候であり、単収に悪影響を与えている。ことに南東部地域の、リオ・グランデ・ド・スルの19/20年度産の生産量は18/19年度に比べて約3分の1が減少する見込み。この地域はトウモロコシの1期作目としては最大の生産州である。作付面積が+5%増加したにもかかわらず、12月～2月の干ばつにより、単収が減少し、リオ・グランデ・ド・スル州の生産量は前年比▲30%減だった。殊に被害が大きかったのは、2019年9月に作付けした農家で、2019年12月に非常に乾燥し高温な天候に直面し、開花と結実期に影響し単収は減少した。これらの生産者は想定されていた生産の65%を喪失した。

ブラジル産産物市場における
トウモロコシ価格
(60キロ袋)

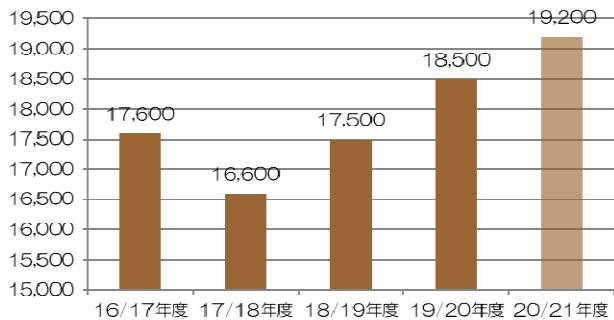


マトグロッソ州における
トウモロコシ価格
(60キロ袋)





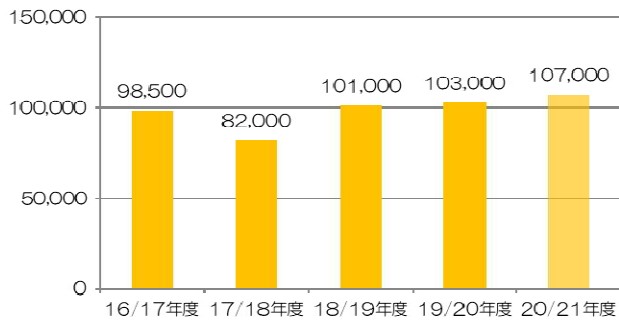
千ヘクタール ブラジルのトウモロコシ収穫面積



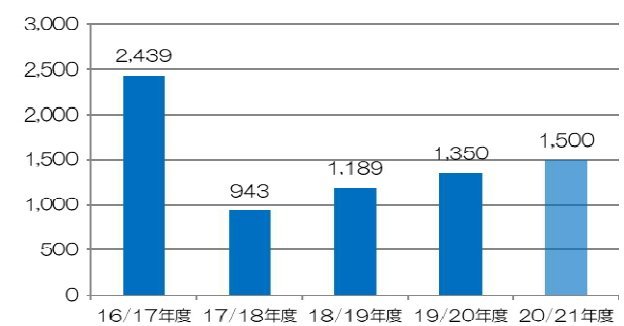
キトン ブラジルのトウモロコシ単収



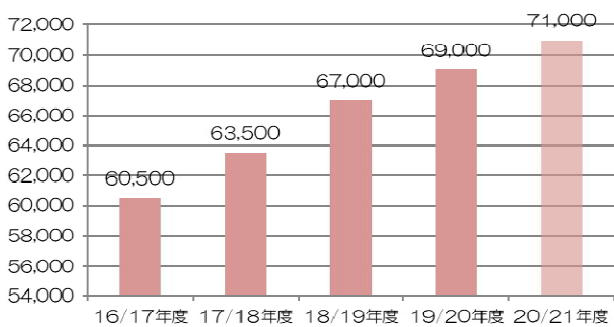
キトン ブラジルのトウモロコシ生産



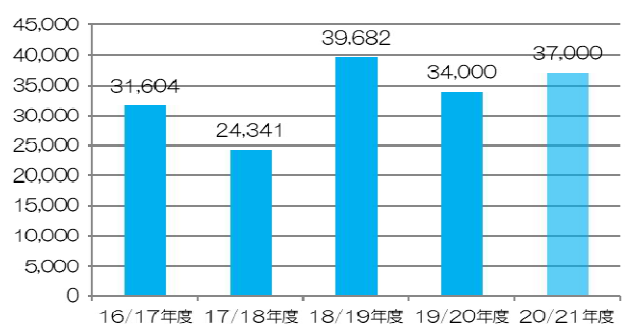
キトン ブラジルのトウモロコシ輸入



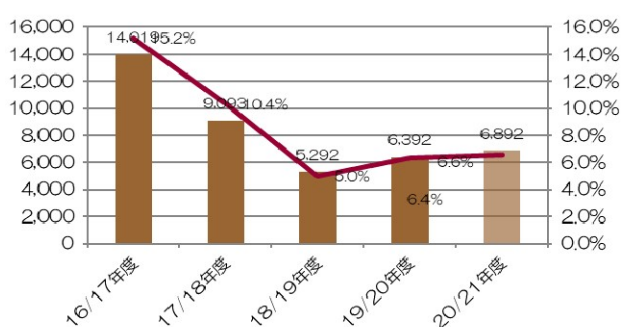
キトン ブラジルのトウモロコシ国内需要



キトン ブラジルのトウモロコシ輸出



キトン ブラジルのトウモロコシ期末在庫と在庫率



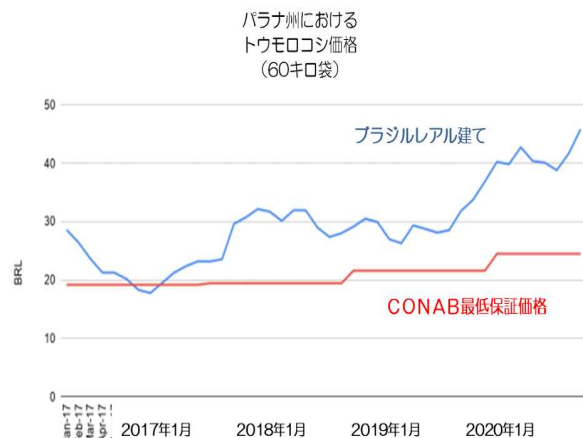
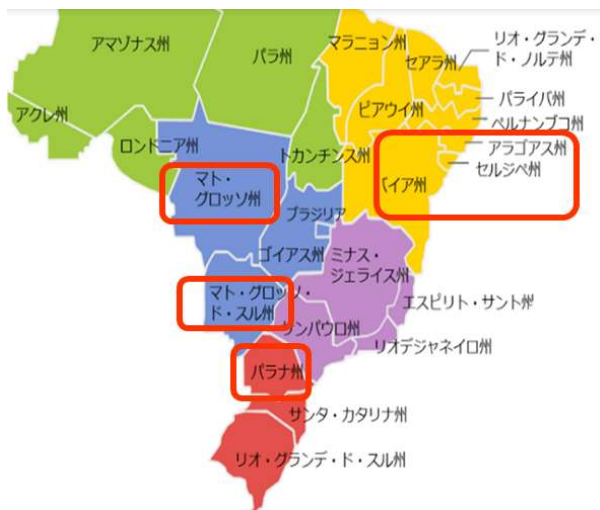


サフリンハトウモロコシも19年12月の干ばつの影響を受ける

一方、ブラジルの2期作目の通称「サフリンハ (safrinha)」トウモロコシは、パラナ州やマトグロッソ・ド・スル州を含む主要な成長地域の一部で乾燥した状態を見て、生産性の結果が混在しました。ブラジルの農業統計局であるナショナル・フード・サプライ・カンパニー (CONAB) によると、全国的に収穫量は前シーズンより▲4%少なかった。しかし、最大の生産国であるマトグロッソ州では、平均収量がわずかに減少したが、一方でサフリンハコーンの作付面積は大幅に拡大した。マトグロッソ農業経済研究所 (IMEA) によると、過去最高の国内トウモロコシ価格に牽引され、生産者はマトグロッソ州のサフリンハトウモロコシ生産面積を50万Ha以上急激に拡大し、合計で540万ヘクタールを上回った。サフリンハコーンの収穫は2020年8月中旬に行われた。マトグロッソ州だけでも、2019/20年にブラジルのトウモロコシ作物の3分の1以上を生産している。世界中の綿花価格がコロナウイルスのパンデミックにより需要が急減したため、同州の多くの農家は綿花の代わりにサフリンハトウモロコシを植えることを選択した。ブラジル全土では、サフリンハコーン収穫面積は2019/20年度でほぼ+100万ヘクタール拡大した。

ブラジル南部パラナ州のサフリンハ

パラナ州はブラジルで2番目に大きなトウモロコシ生産州であり、2018/19年度はの全国収穫量の約17%を占めた。生産者の大半が最初に大豆を植えるので、南部ではトウモロコシのおよそ80%はサフリンハである。19/20年度は、乾燥した天候により、大豆の作付が遅れ、その結果大豆の収穫も遅れた。これはサフリンハトウモロコシの作付けの遅れをもたらした。高い国内価格に動機づけられて、早いところでは2月中旬にトウモロコシを作付けた。他の農家は、ここ数ヶ月で記録的な価格で取引されている小麦を第二の作物として作付けた。しかし、パラナ州の大部分では3月から5月にかけて降雨が少なく、サフリンハトウモロコシの収量を著しく妨げた。パラナ州のサフリンハトウモロコシの収穫は9月中旬にほぼ完了した。パラナ農村経済省 (DERAL) によれば、生産量は前年比約▲13%、▲150万トン減少し、19/20年度は合計で1,180万トンと推定している。単収は平均は約5.5 トン/ヘクタールだった。サフリンハ作物のわずか44%が良好な状態にある。



パラナ州の上のマトグロッソ・ド・スル州のサフリンハ

パラナ州の上にあるブラジル第4位のトウモロコシ生産州マトグロッソ・ド・スル州でも、サフリンハトウモロコシの成長期に乾燥した状態となった。ここでも大豆の収穫が遅れたため、サフリンハトウモロコシは州内で遅れて作付けされ、理想的な期間が終わった3週間後に生育した。梅雨が終わると作物は乾燥状態になりやすくなる。9月中旬の時点で、マトグロッソ・ド・スル・トウモロコシ大豆生産者協会 (Aprosoja/MS) は、サフリンハトウモロコシの収穫が州内で90%以上完了したと報告している。トウモロコシの収量は前年比▲7%減で、生産量は2018/19年に比べて▲8%減少している。同州の19/20年度のトウモロコシ生産量は、前年比▲80万トン減の880万トンと予想されている。

ブラジルで第3のトウモロコシ

2019年後半、ブラジルの農業統計機関である国家食糧供給会社 (CONAB) は、国内で3番目のトウモロコシ作物を定義した。このトウモロコシは、主に「シールバ」という頭文字で知られている地域であるセルジペ、アラゴア州、およびバイアの北部に植えられている。第三作物のトウモロコシは、米国のそれによく似た作付けと収穫のサイクルで、5月から6月に播種し、10月から11月に収穫される。

この生産は、以前はサフリンハトウモロコシに含まれていたが、作付と収穫時期が違いため、CONABはそれを分離することを決めた。

第3作物のトウモロコシは、ブラジルの2019/20年の総生産量の約1.5%を占め、面積の約3%を占めるだろうと予想している。

CONABによると、第3作物のトウモロコシの生産量は前年に比べて+40%以上増加する予定である。



20/21年度産は乾燥時期から始まり、取引所価格は過去最高値となっている

2020/21年度の場合、第1期作のトウモロコシ作付けは2020年9月中旬時点で約20%完了し、過去5年間の平均を上回った。ラ・ニーニャ（La Nina）気象現象の発生により、一部の地域の土壌水分は、通常のこの時期より乾燥している。ブラジルでは、乾期の終わりに近いこの時期にで非常に乾燥した状態を見ることはよくあることだが、通常以下の降雨量レベルにより、一期作トウモロコシと大豆の両方の生産者は土壌水分レベルが低下することを心配している。

一部の地域では、ここ数週間で散発的な雨が降っているが、土壌水分レベルを許容可能な水準に引き上げるには不十分であり、一期作目のトウモロコシの播種を遅らせ、生産量を損なう可能性がある。さらに、大豆作付の遅れは、今度はサフリンハトウモロコシの作付けを遅らせ、理想的なサイクルを過ぎて作付けになる可能性がある。こうした懸念により、このところブラジル国内のトウモロコシ価格は上昇し、フエノスアイレス商品取引所では、9月24日にR\$61.28（US\$11.11）の新高値を記録した。

トウモロコシ価格は2021年まで高いままであると予想される。そのためサフリンハトウモロコシの作付けは増える可能性がある。マトグロッソ州農業経済機関（Mato Grosso Institute of Agricultural Economics：IMEA）は今後トウモロコシ作付面積は+5%拡大し、570万ヘクタールとなり、新記録を樹立すると予想している。さらに、通常の気象条件を仮定すると、2020/21年度のマトグロッソ州では、州内で大豆よりも多くのトウモロコシを収穫可能性があると考えている。IMEAは大豆生産量が3,500万トンを超えるが、サフリンハトウモロコシの収穫量は3,630万トンに達すると予測している。このシナリオは確かに現実的だが、サフリンハトウモロコシの生産は、理想的な作付け時期が2月下旬に終わる前に、どの作物がどれだけ作付けされるかによると見ている。

ブラジル最南端のリオグランデ・ド・スル州は、通常、一期目のトウモロコシの最大の生産州であり、作物の5分の1以上を占めている。8月に行われた調査に基づいて、一期目のトウモロコシ用のリオグランデ・ド・スル・エクステンション・サービス（EMATER/RS）プロジェクトに基づいて植えられた地域は+5%近く拡大し、平均収量と総生産量は昨年の不振から回復すると予想されている。合計で、州が予定通り作付けすれば、同州の一期作目のトウモロコシの生産量は約600万トンとなると予想している。

ブラジルのトウモロコシ輸出

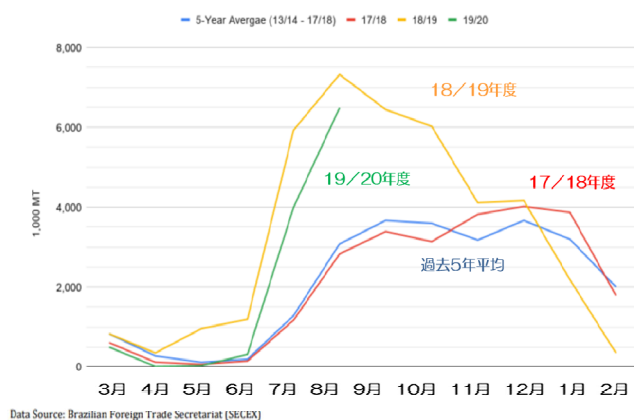
18/19年度は多く、19/20年度も最初の3ヵ月は前年程ではないが過去5年平均の2倍

2019/20年度のブラジルのトウモロコシ輸出量の予測を+50万トン引き上げ、前年比▲14%減の3,400万トンとした。

2018/19年は約4,000万トンの輸出を記録し、在庫が深刻に枯渇した。家禽や家畜分野向けの内需が好調なため、今後ブラジルは現在の作物の大部分を消費するだろう。しかし、8月までの2019/20年度の輸出は18/19年ほどではないが、まだ好調を持続しており、過去5年平均を大きく上回っている。

2020/21年度の場合、トウモロコシの輸出予測を+100万トン引き上げ、3,700万トンとよそくする。生産拡大への期待と、ブラジルレアル安が続く可能性が高く、新型コロナウイルスの再発で、ブラジルのGDP成長率が低下する可能性がある。

ブラジル産トウモロコシの月別輸出量



レアル安で農産物全般が輸出ラッシュ

ブラジルレアルは2020年に急激に下落しており、新型コロナウイルスがブラジル全土に広がり、失業率は急速に上昇した。9月時点ブラジルレアルはドルに対して5.56レアル/ドルで取引されている。今年の初めは4レアル/ドルであったため、以来ブラジルレアルは約30%下落している。そのため、ブラジルの農産物の海外市場への輸出は拡大し、そのためトウモロコシ、小麦、コメなどの国内の農産物価格は上昇した。そして生産者は、19/20年産トウモロコシを急いで売却している。9月中旬のIMEAのデータによれば、マトグロッソ州のトウモロコシは、過去5年平均の86%に比べて93%が商品化された。

18/19年度のトウモロコシ輸出は3,980万トンであったが、19/20年度の最初の3ヵ月の輸出はゆっくりとしたスタートであった。3月～5月の間にブラジルの港から輸出されたトウモロコシの量は、52万7,419トンに過ぎなかった。これは過去7年で最も少ない最初の3ヵ月の輸出量であり、昨年の同期よりも少ない。その理由はブラジルの港では大豆の輸出で込み合っているためである。しかし、大豆のフィーバーは7月にも収束し始め、7月には約400万トンのトウモロコシが輸出され、8月には650万トンとなった。しかし、この輸出水準は18/19年度程ではないが、13/14年度～17/18年度の5年平均に比べると2倍近い水準である。



幹線道路の舗装が完了したことが大きな輸出増大の理由

サンパウロのLuiz de Queiroz College of Agricultureの調査によれば、2019年7月から2020年7月まで、マトグロッソ（Mato Grosso）州 ソリッソ（Sorriso）からパラナ州ミリテイトゥバ（Miritituba）までのトラック輸送料金は約13%下落し、2019年7月の平均R\$236.35 から205.18レアル（約38.69ドル）となった。これは、BR163号線の国道が舗装され、トラック運転手がトラックが月に何度も往復できるようになり、トラックの修繕回数が減少し、ディーゼル燃料が節約できるようになったためである。

ブラジル国家交通インフラ省（Brazil's National Department of Transportation Infrastructure : DNIT）は、このルートを通る2020年のトラック台数は約30%増加したという。その結果、マトグロッソからのブラジルの北部の港湾からのトウモロコシ輸出量が増加した。1月から8月の間で、北部港湾から輸出されたトウモロコシの量は少なくとも400万トンで、そのうち380万トンは、南部産のものであった。なおこの港湾にはサンパウロ州のSantos港やパラナ州の Paranagua港を含む。



Source: Valor Econômico

5年後にはフェログラオという鉄道が建設され

BR-163の舗装により、マトグロッソのトウモロコシの競争力が上がり、生産者の利益が増加した。将来、Feroograo（穀物列車）がBR-163号線に隣接して建設される予定で、このプロジェクトは30億米ドルの規模で、ブラジル政府は2021年上半年に入札を行う予定である。建設には5年を要するであろう。このフェログラオが完成すれば、穀物と油糧種子を毎年3,500万トン輸送する可能性があり、輸送コストを更に削減し、マトグロッソ州の子農産物の競争力を高めることになるだろう。



Source: USDA/Agricultural Marketing Service (AMS)

ブラジルのトウモロコシ輸入

2019/20年のブラジルのトウモロコシ輸入量を▲110万トンに引き下げた。これは前年に比べて3分の1以上の減少となる。前年比。この予測は貿易のペースに基づいていると共に、サフリントウモロコシの大部分が国内で消費されたと見ているためだ。2020/21年度の輸入量は150万トンと見ている。3月から8月まで、ブラジルは約30万トンのトウモロコシを輸入したが、これは18/19年度の同時期の輸入量の半分以下である。そのすべては南米南部共同市場メルコスールの一員である隣国パラグアイからの輸入で、パラグアイとアルゼンチンは、それぞれ輸入量の3分の2と3分の1を占めている。18/19年度はパラグアイが輸入元の94%を占めていた。一期作目のブラジルのトウモロコシ生産量が長年にわたり減少しており、また生産地はブラジル中部が増加し、南部は減少しているが、ブラジル南部は家畜・家禽の生産が多い。ブラジル全体では、トウモロコシよりもはるかに多くのトウモロコシを栽培しながら、例えば、ブラジル南部のサンタカタリーナ州は、ブラジル最大の鶏肉と豚肉の生産地であるが、同州の必要とするトウモロコシの半分しか州内では生産しておらず、はるかに安価で、地理的に近いパラグアイからトウモロコシを輸入している。ブラジル中部のマトグロッソ州から運びより、パラグアイから運んだ方が運賃が安いからだ。



米国産トウモロコシのブラジル向け輸出の可能性

現状では非常に急速な輸出があるばかりでなく、高止まりしている国内価格はトウモロコシの収穫が終わるにつれて更に上昇する気配を見せている。このことを、同国のトウモロコシの65%を消費しているブラジルの家畜や家禽業者は心配している。ブラジル農務省は、パンデミックの開始以来見られる食料価格インフレの上昇を考えると、非メルコスール諸国からのトウモロコシの輸入関税8%を一時的に撤廃する提案を出すことを検討したと伝えられている。しかし、港湾インフラやバイオテクノロジーでトウモロコシの品質承認などの手続きを考えると、海上からの輸入は限られている。多くのブラジルの港のバルク穀物および油糧種子ターミナルは輸出専用で構成されており、特にトウモロコシの輸出が外国市場に流入し続ける中で、そのインフラを変更するとなると、その効果よりも多くの資金が必要となる可能性がある。

さらに、特に米国産トウモロコシのブラジル向け輸出の可能性は、遺伝子組み換えトウモロコシの承認手続きが必要となる。the International Service for the Acquisition of Agri-Biotech Applications (ISAAA)のデータベースによれば、少なくとも9つのトウモロコシ品種がブラジルでは承認されていない遺伝子組み換えトウモロコシとなっている。仮にブラジルが承認していない品種を輸入しようとするなら、その輸入業者はブラジルバイオテクノロジーに関する国家技術委員会 (Brazil's National Technical Commission on Biosecurity : CTNBio) に申請し、承認を得る必要がある。こうした申請はケースバイケースで考慮されるが、2020年の後半には二回の会議しか予定されていない。つまり米国産トウモロコシをブラジルに輸出するにはかなり面倒な手続きが必要ということである。

ブラジルのトウモロコシ国内需要

家禽・養豚用飼料向けトウモロコシ需要

新型コロナウイルスパンデミックに関する生産の当初の減速にもかかわらず2019/20年度のトウモロコシのブラジル国内消費は家禽や養豚の生産増加、トウモロコシエタノール部門の継続的な拡大に基づき▲100万トン引き下げ6900万トンとした。これは18/19年度比+3%増である。2020/21年度の国内需要は、+200万トン増、+3%増の7100万トンとした。家禽・家畜生産の継続的な拡大、中国をはじめとする好調な輸出市場、ブラジル中西部におけるトウモロコシエタノールの増産などによる。

ブラジルのトウモロコシ消費量は過去20年倍増している。ブラジルは世界最大の鶏肉輸出国となり、豚肉輸出は世界第4位である。こうした家禽・家畜生産は毎年ブラジル産トウモロコシの最大の需要分野である。ブラジルの穀物需要の6割は飼料向けとなっている。2019年暦年で、ブラジルは家禽と豚肉の輸出が過去最大となった。主に中国向けであり、中国国内でアフリカ豚熱が流行したことがその要因である。中国の輸入業者が動物性たんぱく質の輸入を欲し、ブラジル最大の産業がその需要に昨年答えたことが需要増の理由となっている。この傾向は2020年も続いている。鶏肉生産は+1%増加し、2021年はさらに4%増となる見込みで生産量は1440万トンになると思われる。豚肉生産は国内需要の増加も手伝って、2020年+3%増加し、21年には+4.5%増加すると見込まれている。ブラジルの10社の豚肉生産者は鶏肉生産者の半分の飼料を消費しているが、それでも消費の伸びは止まっていない。ブラジル飼料食料協会 (the Brazilian Feed Rations Association) によれば、2020年暦年のトウモロコシとその他の飼料原料の生産量は+3.8%増の8,050万トンになるというすべての飼料におけるトウモロコシの生産量は、2020年は+4%増、+180万トン増となると言う。

食料・種子・工業用需要・エタノール向け需要

2019/20年のトウモロコシのブラジル国内食料・種子・工業用 (FSI) 需要は、前年から少し増加の1,050万トンと予想する。ブラジルのまだ小さいが成長しているトウモロコシ産エタノール需要は、近年急速に増加しているがブラジルを含む世界の新型コロナウィルスの蔓延により燃料消費そのものが今年初めに減少している。にもかかわらず、2020年業界は生産能力を増強している。そのため、20/21年の食料・資料・工業用 (FSI) 需要は1,100万トンになると見ている。ソーシャルディスタンスの厳密な運用により、燃料消費は影響を受けると思われる。エタノール価格は低下しているが一部の分野ではゆっくりと通常の生活に戻りつつある。ブラジルトウモロコシエタノール協会 (the Brazilian Corn Ethanol Union : UNEM) によれば、今年ブラジルはトウモロコシ産エタノールを+8%増の25億リッター生産するという。今年600万トンのトウモロコシを使用し、2028年には80億リッターのトウモロコシ産エタノール需要となり、2,000万トンのトウモロコシを消費するという。

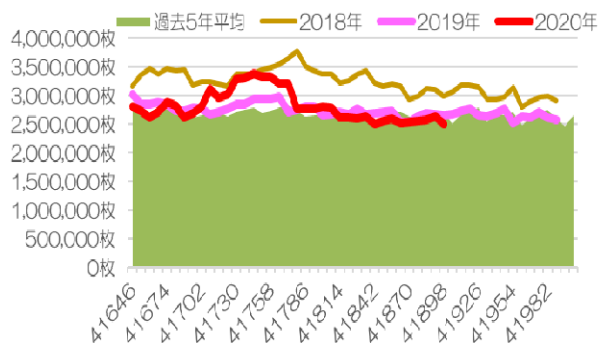
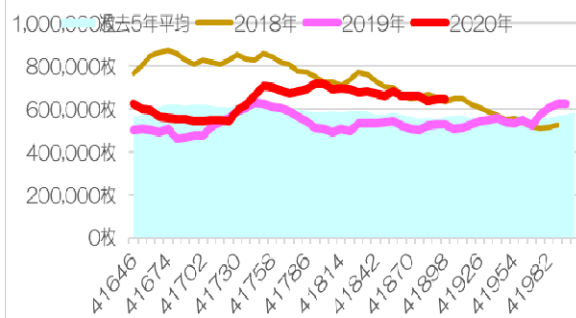
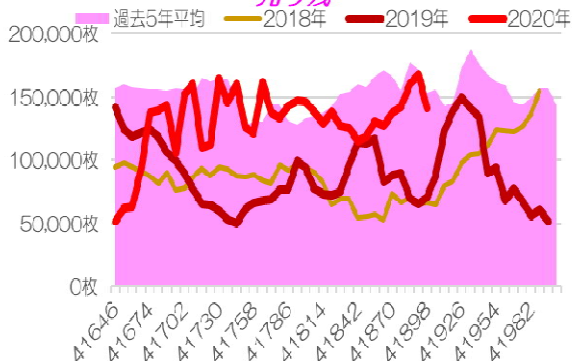
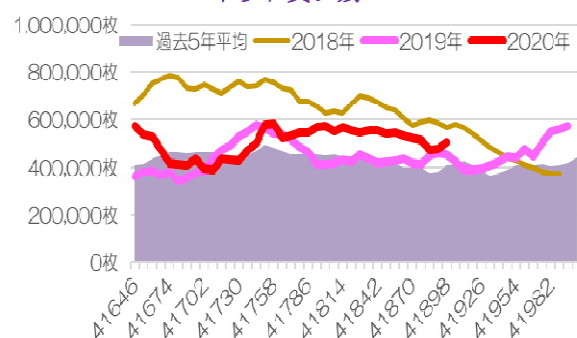
ほとんどのトウモロコシエタノール生産者は、現在の状況を過ぎて、ブラジルの新しいカーボンクレジットプログラム RenovaBioが今後数年間でエタノール需要を押し上げることを期待して、処理能力を拡大し続けている。ブラジルには現在、トウモロコシを加工できる11のエタノール工場があり、主にマトグロソ州にある。またゴイアス州、パラナ州にもいくつかのエタノール工場がある。マトグロソ州には3つの追加プラント (トウモロコシのみを使用する工場が2か所、サトウキビも使える工場工場が1か所建設中で、完成すると今後2年間でさらに14億リッターの生産能力を追加する可能性がある。ブラジルにおけるトウモロコシエタノール生産の成長の可能性は、依然として地域の燃料需要と、国内の他の地域に過剰燃料を輸送する物流上の課題と収益性によって制限されている。中西部地域に集中しているが、このセクターはすでにブラジル北部と北東部地域の10州にトウモロコシベースのエタノールを販売しており、ブラジルの北東部沿岸の人口センターへの流通能力の拡大に目を向け続けている。また、今年初めにトウモロコシベースのエタノールの最初の外国販売を行い、EUへの燃料エタノールとペルーとチリへの工業用エタノールの輸出が行われた。



トウモロコシのファンドの建玉

までの週	取組高	買い残	売り残	ネット買い残	増減	価格
7月7日	+1,872,744枚	+246,736枚	+339,954枚	▲93,218枚	+58,963枚	¢343.5
7月14日	+1,876,486枚	+256,234枚	+326,141枚	▲69,907枚	+23,311枚	¢326.0
7月21日	+1,905,548枚	+263,916枚	+331,593枚	▲67,677枚	+2,230枚	¢322.8
7月28日	+1,950,332枚	+285,024枚	+349,572枚	▲64,548枚	+3,129枚	¢320.0
8月4日	+2,030,923枚	+295,757枚	+396,307枚	▲100,550枚	▲36,002枚	¢320.3
8月11日	+1,990,550枚	+289,827枚	+388,034枚	▲98,207枚	+2,343枚	¢323.5
8月18日	+1,936,499枚	+307,743枚	+342,963枚	▲35,220枚	+62,987枚	¢341.8
8月25日	+1,730,455枚	+309,004枚	+290,665枚	+18,339枚	+53,559枚	¢354.5
9月1日	+1,722,881枚	+312,416枚	+220,948枚	+91,468枚	+73,129枚	¢358.0
9月8日	+1,751,115枚	+318,688枚	+202,343枚	+116,345枚	+24,877枚	¢361.8
9月15日	+1,837,646枚	+340,202枚	+186,502枚	+153,700枚	+37,355枚	¢366.0
9月22日	+1,912,306枚	+360,697枚	+162,415枚	+198,282枚	+44,582枚	¢369.3
9月29日	+1,879,842枚	+359,287枚	+150,100枚	+209,187枚	+10,905枚	¢364.8
10月6日	+1,974,057枚	+385,104枚	+132,200枚	+252,904枚	+43,717枚	¢385.0
10月13日	+2,004,401枚	+409,119枚	+117,570枚	+291,549枚	+38,645枚	¢391.3
前週比	+30,344枚	+24,015枚	▲14,630枚	+38,645枚	▲5,072枚	+¢6.3
2カ月前比	+13,851枚	+119,292枚	▲270,464枚	+389,756枚	+36,302枚	+¢67.8

10月13日時点のシカゴトウモロコシのファンドの買い残は+3万8,645枚増加し、売り残は▲1万4,630枚減少して、ネット買い残は+3万8,645枚増加して、29万1,549枚となった。10週間連続で1万枚以上の増加となっている。

シカゴトウモロコシに対するファンドの
取組高シカゴトウモロコシに対するファンドの
買い残シカゴトウモロコシに対するファンドの
売り残シカゴトウモロコシに対するファンドの
ネット買い残



今後の予想

ブラジルでは昨年と今年に干ばつが発生している。今年の乾燥高温はラニーニャの発生による影響かもしれない。ブラジル国内トウモロコシ価格は過去最高値を付ける程喉頭している。それは、生産減と共に過去の輸出の増加による在庫の減少、国内の家禽・養豚業者が主に中国向けの鶏肉・豚肉輸出の増加により、飼料用需要が急増しているためである。

但し、国内価格高騰により、トウモロコシの生産が今後増加する可能性がある。といっても来年の2月に作付けして5月に収穫するものであり、先の話しなので、現在は未だ価格は上昇過程にあるとみても良いかもしれない。ファンドは10週連続で大幅にシカゴ産トウモロコシを買い越しており、8月18日までのネット売り残は大幅なネット買い残に変貌している。

シカゴトウモロコシ価格は8月初めの320セントから10月20日には402セントまで約80セント強上昇している。まだ買いは続くかもしれない。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

発行元：



COMMODITY
INTELLIGENCE

株式会社コモディティー インテリジェンス 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
メールアドレス: kondo@commi.cc